



喜多埜

薬子の变 一千二百年

「薬子の变(くすこのへん)」とは、平安時代初期の、大同五年(八一〇)九月に起きた事件の事で、首謀者の藤原薬子の名前をとって薬子の变といい、今月でもってその事件から一千二百年目となります。

この事件は第五十一代の天皇であられた平城上皇が、不倫関係にあった藤原薬子らに唆され、讓位後にも関わらず都を勝手に遷し、兵を集めて叛乱を画策しようとした事に、時の天皇であらされた、第五十一代 嵯峨天皇さま(当宮の主祭神でもあらわれます)がついに決断され、東北に逃れて兵を起こそうとしていた平城上皇らを未然に捕らえて、内戦の勃発を早期に防がれた事件です。

もし、この事件で嵯峨天皇さまの決断が一日遅れていたら、日本史は大きく変わり、いまのイギリスのように、同じ陸地に別の国が出来ていたかもしれません。そういった意味でも、嵯峨天皇さまの決断力と政治力は日本史の中でも傑出しています。

しかし、何よりも素晴らしいのは、古代においては叛乱を起こせば、首謀者の一族郎党は死刑が当たり前の時代に、藤原薬子と、藤原仲成ら首謀者以外の者は死刑を免れ、その後の働きに免じて赦免も行われるなど寛大な処置をされ、また事件に担がれた平城上皇にも十分な支援をされるなど、あとの気配りが実に行き届いたものである事に驚かされます。

この薬子の变から三百四十六年間。保元の

乱で源為義が死刑になるまで日本で死刑は行われず、嵯峨天皇さまの御心が三百五十年近く生き続け、日本国に平穏と安定をもたらしていた事が分かります。まさに平安時代と呼ぶに相応しい時代でした。故に平安遷都は桓武天皇、平安定都は嵯峨天皇さまの功績であるといわれます。

海外では二百五十年間の安定をもたらした徳川家康を評価される事は数多くありますが、更に百年長い平安をもたらしした嵯峨天皇さまの評価は史料の少なさから語られる機会もありません。

しかし、政治がかつてないほど混迷するこの時代、私情を捨て、国の為に騒乱を小さな内に素早く処断し、そして深い心配りで平安の基礎を固められた嵯峨天皇さまの御代に見習うべき点は多いのではないのでしょうか。

桂佐ん吉さん落語会

今月の九月二十八日(火)の午後七時頃から、茶屋町の御旅社で人間国宝、桂米朝さんのお弟子さんの桂佐ん吉さんの落語会があります。

- ・一回目 午後七時から
- ・二回目 午後七時四十分から
- ・三回目 午後八時二十分から

一回だけ(五百円)でも、三回通し(一千二百円)でも聞くことが出来ます。尚、お席は自由席(五十席)で満席になり次第×切とさせていただきます。詳細は米朝事務所までお問い合わせ下さい。
米朝事務所 06-6365-1828

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編者 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

